

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和4年7月27日（水）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：田中委員長代理

<質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから7月27日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

なお本日の会見は、田中委員長代理のほうで対応させていただきます。

それでは皆様からの質問をお受けいたします。

いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

新潟日報のエンドウさんお願いします。

○記者 新潟日報のエンドウです。よろしくお願いします。

規制委員会とは直接関係ないんですけども、月曜日に東京電力の核セキュリティの専門家評価委員会が東電に対して報告書を提出しました。着実に改善が進みつつあるというような内容で、一方で期限切れの入構証の問題については、これまでの努力が水泡に帰しかねないというような評価をしているんですけども、これについて委員長代理、どのようにお考えか、お考えをお願いします。

○田中委員長代理 ありがとうございます。そういうふうな報告があったことは認識してはいますが、それを含めて東京電力としてどういう対応をしていくかについては、今後、我々の追加検査の中で見ていくということになっていくかと思えます。

○記者 その中で、板橋委員長の記者会見の中で、規制委員会が中間報告の中で、柏崎刈羽固有の問題だというふうに結論づけていると思うんですけども、板橋委員長はそうではなくて、これは東電全体の問題、東電固有の問題、体質の問題も含まれているというような御認識を語られています。

改めて規制委員会として、なぜ柏崎刈羽固有の問題といえるのか、見解が分かれていることについて、何か御所見があればお願いします。

○田中委員長代理 KK（柏崎刈羽原子力発電所）の問題だというのは、我々としても、4月27日に中間取りまとめというのを書いています。あのときに、どうして我々はKKの特有の問題であるかということに対して、そこにその理由も含めて、しっかり説明していますので、それを見ていただければ、KK特有の問題だということは分かるかと思えます。

○記者 ありがとうございます。見解が分かれていることは特段、何かありますでしょうか。

○田中委員長代理 見解は人によって、そういう判断が異なることはあり得るかと思いま

すけども、我々としては、規制委員会とすれば、4月27日の、先ほど申し上げましたが、中間取りまとめに書かれているような理由によって、KKの問題だと考えました。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

では、まずヤマノさんお願いします。

○記者 朝日新聞のヤマノと申します。

先ほどの議題5の地震計の件なんですけれども、設置が3台不適切だったというお話かと思うんですけど、昨年もいわゆる故障した地震計が放置されていて、データが取れなかったみたいな話があったかと思うんですが、福島第一で、地震計で適切なデータが取れないということが何件か続いていることについて、どのような御見解をお持ちでしょうか。

○田中委員長代理 昨年の地震のときに、地震計でうまく計れなかったということは認識してございます。また、今日の説明でもありましたけれども、各々地震計の目的が結構違うところがありますので、それに対して、どういうふうに我々として見ていくのか、検査していくのかということが大事かと思えます。

○記者 やはりそういう中で、適切なデータが取れるような体制作りというものについて、検査官の皆様はじめ、これから見ていくというようなどころがあるんでしょうか。

○田中委員長代理 6月の検査官会議でもあって、1F（福島第一原子力発電所）じゃないところについては、どういうふうな地震計があって、どう見ていくかという議論もしました。それから1Fについても、いろんなことで説明していただきました。1Fは事故を起こしたところであり、今後もうどういうふうなところの地震の揺れが大事かというふうなことも、東電も認識して、これからやっていくでしょうし、我々もそれを分かりながら確認していくということになっていくかと思えます。

○記者 分かりました。ありがとうございました。

○司会 ではハセガワさんお願いします。

○記者 NHKのハセガワです。

1Fの処理水の関係で、金曜日に規制委員会として審査書、認可をしたというようなことだと思うんですけども、この関係で田中委員御自身として、その審査をどのように見て、どう受け止められたか、御所感があればお願いします。

○田中委員長代理 審査書に説明がありましたとおり、1章と2章と分かれていまして、炉規法に基づいて、あるいは国際的に見てというふうなことで、科学的な観点、あるいはIAEA（国際原子力機関）の基準に基づいて、しっかりと確認したということは理解してございます。

また、1F廃炉全体の問題とも絡んできますので、そういうふうな観点で、総合的なり

スク低減という観点からも重要なことであるということ、その考え方の中にも書いてあるということは、私も重要な点だと思っています。

○記者 ありがとうございます。

その上で、処理水を巡っては関係者のステークホルダーを含め、なかなか理解が得られない中でも、やらなければならない苦肉の、苦渋の決断だというふうなところ、前回、更田委員はおっしゃっていましたが、その上で今後廃棄物であったりとか、そういったところも、1F特有の問題も出てくるかと思うんですが、そのあたりについて、監視・評価検討会にも出られているかと思うんですが、そのあたり、今後の課題をどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

○田中委員長代理 まず後半でありましたいろいろな廃棄物問題、将来出てくる廃棄物のことは扱っていないんですけれども、固形状の放射性物質をどう考えるかというのは大変重要であって、それが後回しにならないようにしないとイケないと思います。ということでは、我々はリスク低減マップの中でしっかり書いていますけれども、いかに安定化していくのかとか等々、大事だとありますし、それが問題なく行われていくということが大事かと思えます。

また、私、昔、廃棄物の研究していましたから、廃棄物問題が後々になって、それが結果としてよくないということがあるといけませんので、月曜日のときも、ちょっと私、きつめのコメントをしたところでございます。

○記者 その監視・評価検討会でも東京電力の姿勢に対して、おっしゃられていたけれども、改めてその意図を伺えますでしょうか。

○田中委員長代理 東京電力も答えてはいたけれども、言葉だけじゃなくて、具体的にどういうふうにしていくのかということの説明をいただいて、我々が、それが問題なく行われていくのか、それだったら、まあまあうまくいくんじゃないかというようなことを確認できないといけないということでございまして、ただ単に言葉だけではいけないというふうな観点で申し上げました。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—